

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 甲州市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 先進的ICT環境が創り出す、小規模校発の21世紀型地域創生事業
4. 研究課題 :
・先進的ICT環境による、個に応じた学力向上への授業開発
・先進的ICT環境による、21世紀型能力の育成を視野に入れた小規模校発の町おこしプロジェクト（以下「新たなふるさと学習」と表記）
・先進的ICT環境が創る、学校連携ネットワーク構築及び交流事業の計画・実施
・先進的ICT環境が創る、複数学校合同の同期型CSCL（Computer Supported Collaborative Learning）授業の開発

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

調査研究に参画する大藤小学校、神金小学校、玉宮小学校の3校は、近年、児童数の減少が著しく、学校統廃合検討の話題にはあがるものの、地域的、歴史的な要因もあり、現状では難しい状況にある。そこで、本事業では、児童減少の状況に歯止めをかける対応策として、また、小規模校だからこその特色や環境を生かした教育を行うため、先進的ICT環境の設置をすることにより、地域活性化の取り組み、学校連携ネットワークの構築及び交流、複数学校合同の同期型CSCL授業の開発など、実現可能であろう状況に焦点を当てた取り組みの実現を図るとともに、それを地域に積極的に発信する。

(2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

4月	事業計画及び研究内容の確認と今年度の計画立案 各校研究体制づくり 児童の実態把握調査の作成と実施 事業推進にかかわっての学習会
5月	打合せ会議 事業計画・実践内容の検討 同期型CSCL授業の学習の取り組み開始 PTA学年部会・総会で事業の説明と協力要請 新たなふるさと学習の取り組み開始
6月	21世紀型地域創生推進会議 ICTネットワークを活用した交流学習の取り組み開始 3校合同の社会科見学 同期型CSCL授業の学習会（講師招聘）
7月	打合せ会議 消耗品等の設定及び各校への配布 授業参観を活用しての研究公開と地域への発信

8月	教員同士の協働ネットワークの活用と活用方法の検討 同期型CSCL授業の学習の研修
9月	打合せ会議 「新たなふるさと学習」のプログラムの検討と作成
10月	同期型CSCL授業の学習の取り組み 「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表会での活動の発表
11月	打合せ会議 学習カリキュラムの検討と作成 授業参観を活用しての研究公開と地域への発信
12月	学校間遠隔授業モデルの検討と作成
1月	研究のまとめ
2月	同期型CSCLの構築 文部科学省への事業完了報告作成 次年度の活動計画書作成 21世紀型地域創生推進会議
3月	同期型CSCL授業の提案 授業参観を活用しての研究公開と地域への発信

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<ul style="list-style-type: none"> ・授業モデルに関わるタブレットの配置数については、人数の少ないことをメリットと捉え、今年度は、計画通り、各校の児童数の3人に1台を基準としてタブレットを整備することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いた授業モデルについては、アプリなどを用いた基礎的基本的な学習内容の定着に向けた反復練習や体験型学習のためのアプリの設定をすべてのタブレットに行い活用するとともに、来年度に向けての計画を立案することができた。 ・協働学習場面における同期型先進的学習に向けては、同期型CSCL授業を支えるツールである「edutabu」を作成し各校に3台ずつ整備をおこない活用するとともに、学力向上へと繋がる授業等のモデルを作成することができた。また、先進校の視察と研修などをおこなうことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能などを継承する人材資源・豊かな自然資源といった地域資源が豊富な地域において、その資源を活用し主体的な学びを実践することができ、町の自然資源並びに観光資源などの情報を発信する「新たなふるさと学習」を実践した。また、その中で、タブレットPCを用いた情報収集活動・動画編集活動などの活動を設定し、小規模校ならではの丁寧な指導と児童一人ひとりが学び・考え・行動できるよう、発表や活動の機会を保障することを通して、21世紀型能力の向上を図るとともに確かな学力の確立を図ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・大学・行政・学校の協働による同期型CSCL授業（edutab事業）の研究開発により、官学連携事業モデルの提示、タブレットPCの使用という新たな同期型CSCL授業モデルの開発については、大学・行政・学校の協働研究体制の構築をするとともに、学校間ネットワークモデルを構築することができた。また、学校間遠隔授業モデルの検討をおこなうことができた。 ・小規模校が抱える固定化する人間関係による諸問題や、学習成果発表会や各行事などを通じた体験発表会などの機会の少なさといった問題を解決するべく、他学校とのICTをベースとしたネットワークによる成果発表交流事業の継続的な実施を図ることができ、また教員同士の協働ネットワークの実現も図ることができた。

- ・「21世紀型地域創生推進会議」を組織し、本事業の内容や方向性について意見を求めるとともに、学識経験者から先進例の情報提供や指導助言を得ることができた。また、状況に応じて、必要に応じた枠組みでワーキンググループ会議や打合せ会議を組織し実施することができた。
- ・コンピュータの支援を受けた協同学習である同期型CSCL授業（edutab事業）の研究開発により、複数の学級をICTにて結ぶことで、多くの児童の思考に触れられるような環境のための官学連携事業モデルの提示、学校間ネットワーク構築のモデル及び学校間遠隔授業モデルの開発を行うことができた。

◎確かな学力を検証するために

【成果】

- NRTテストにおいてアンダーアチーバーの出現率が5%までは減少しなかったが、若干減少させることができた。バランスドアチーバーとオーバアチーバーの出現率は向上させることができた。
- 全国学力学習状況調査の平均正答率を向上させることができた。
- 21世紀型能力を仲間と協働して学習する力、自ら課題を設定し、解決策を考え結果を導き出し考察をした上で、さらによりよき結果を求め改善する力、またそれらのことを発信したり、仲間の発表などから、自らの考えなどを改善する力がついた。
- QU調査（hyper Q-U）において
 - ・ソーシャルスキルが前年度比よりも向上した。
 - ・学級満足群は全学級で80パーセント以上とならなかったが、3校の合計17クラス中13クラスが80%を越えた。
 - ・2回目のQUの結果から、この事業を通して意欲的な学習集団の育成が図られたと言える。
- 学習アンケート等の事前に比べ事後の結果がよくなった。
- 授業後の学習感想や授業中の発言内容に自分の地域のよさを発見できたり、以前より好きになった児童が多く見られた。
- 「ふるさと山梨・郷土学習コンクール」への応募
 - ・「新たなふるさと学習」として取り組んだ内容を成果としてまとめ、県教委主催の「ふるさと山梨・郷土学習コンクール」へ応募。2作品が優秀賞に選ばれるとともに、学校賞にも選出された。
- 甲州市の学力育成プロジェクトと連動して行うことができ、研究の内容を深めることができた。

学力の指標	H27年度	H28年度
アンダーアチーバー出現率	12.2	11.2
バランスドアチーバー出現率	50.9	50.2
オーバアチーバー出現率	4.4	5.8
全国学力学習状況調査平均正答率	71.4	75.8
QUソーシャルスキル	63.3	66.9
学級満足群(80パーセント以上のクラス数)	10	13

(2) 成果物等

- ・文部科学省委託「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」平成28年度事業報告書

(3) 今後の取組予定

- ①同期型CSCL授業についてはそのモデルを作成、実施し、研究授業などによって成果を公開報告する。（県教委並びに外部有識者、県内の教諭）
- ②タブレットPCを用いた新たなふるさと学習並びに成果発表体験などのICTをベースとした交流事業・学習においても、成果を公開する（県教委並びに外部有識者、地域住民や保護者）